

Morgan Stanley

モルガン・スタンレーサステナブル投資研究所



サステナブル・リアリティ

2026年上半期、サステナブルファンドは従来型ファンドを上回るパフォーマンスを記録。資金流入はプラスであったが、従来型ファンドには依然及ばず

2026年上半期の主なポイント



サステナブルファンドの運用資産総額(AUM)は4兆ドルを超えた

モーニングスターのデータによると、2026年6月末時点で、世界のサステナブルファンドの運用資産残高(AUM)は4.24兆ドルに達し、過去最高を記録した。これは2025年12月比で4.8%の増加であり、その主因はファンドの運用実績である。サステナブルファンドは現在、運用資産総額の6.1%を占めているが、これは2023年12月の最高値である7.2%から低下したものである。この期間、従来型ファンドは一貫してより大きな純流入を記録してきた。



サステナブルファンドは、株式ファンドの堅調なパフォーマンスに牽引され、従来型のファンドを上回る運用成績を記録

2026年上半期のサステナブル型ファンドの中央値リターンは+4.9%となり、+4.0%だった従来型ファンドを上回った。従来型ファンドと比較して高い株式エクスポージャーが、上回るパフォーマンスの主な要因となった。今年上半期、サステナブル株式ファンドのリターンの中央値は+9.0%となり、+8.6%を記録した従来型の同種ファンドをわずかに上回った。これは、従来型債券ファンドの+1.3%を下回り-1.3%となったサステナブル債券ファンドのマイナス分を、十分に補うものであった。サステナブルファンドは、4つの主要地域すべてにおいて、従来型ファンドと比較して中央値のリターンが高く、特に米州およびアジア太平洋地域の投資分野において、そのアウトパフォーマンスが最も顕著であった。



2026年上半期のサステナブルファンドへの資金流入は、依然として従来型ファンドの流入ペースを下回った

上半期のサステナブルファンドへの資金流入額は377億ドルで、これは前年末の運用資産総額(AUM)の0.9%増に相当し、第1四半期には勢いが強まったが、第2四半期には鈍化した。ファンドの籍別に見ると、第1四半期の資金流入を牽引したのは欧州籍ファンドであった。北米籍では第2四半期に資金流入に転じたが、アジア籍では両四半期とも資金流出となった。従来型ファンドは、2026年上半期において、前年末の運用資産残高(AUM)比で+2.5%という、引き続きより大きな資金流入を記録している。

「サステナブル・リアリティ」シリーズについて

サステナブルファンドにおけるAUM、資金流入出、およびパフォーマンスの追跡

「サステナブル・リアリティ」は、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所が長期にわたり連載しているシリーズである。モーニングスターのデータを活用し、世界中の99,000本のファンドを対象としたユニバースにおいて、サステナブルファンドと従来型ファンドの運用資産残高（AUM）、資金流入出、およびパフォーマンスを比較・追跡している。

用語

本分析では、モーニングスターが定義する「サステナブル型」および「従来型」のファンドの定義を採用している。

中央値

投資ファンドでは、期待リターンの変動幅が非常に広いことが一般的であるため、中央値のリターンを基準としている。また、個々の投資家が、そのリターンを達成するファンドを選ぶ可能性を反映するためでもある。リターンは米ドル建てで表示している。

方法論

調査方法の詳細については、17ページを参照されたい。

お問い合わせ

本レポートについて不明な点がある場合は、サステナブル投資研究所 (globalsustainability@morganstanley.com) までお問い合わせください。

本レポート等のお役立ち情報をメールで受け取りたい場合、こちらからサステナブル投資研究所のニュースレターにお申し込みください。

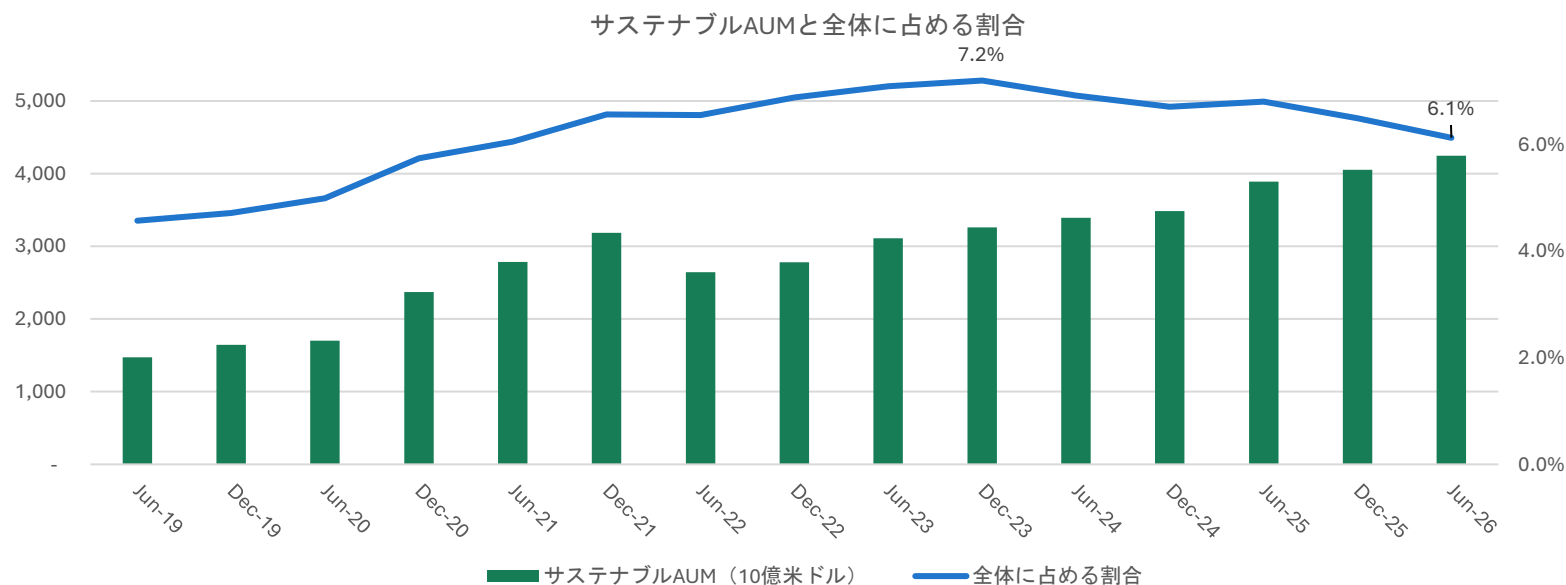
[ニュースレター登録](#)

目次

AUM	5
資金流出入	6
パフォーマンス	9
ネガティブスクリーニング	15
方法論および開示事項	17

サステナブルファンドの運用資産総額(AUM)は4兆ドルを超えた

2026年6月末時点で、サステナブルファンドの運用資産残高(AUM)は4.24兆ドルに達し、2025年末から4.8%増加して過去最高を更新した。これは運用資産総額の6.1%を占めており、2023年12月末のピーク時の7.2%から低下している。サステナブルファンドの運用資産残高(AUM)は、2022年以降、絶対額ベースで着実に増加しており、半期ごとの平均成長率は6.2%となっている。これは2022年から2024年にかけては資金流入とリターンの両方が要因となっていたが、近年は主にリターンが要因となっており、2025年には資金流出が見られ、2026年上半期にはわずかな資金流入が見られた。2023年12月以降、運用資産総額(AUM)に占める割合が減少しているのは、従来型ファンドへの資金流入が引き続き堅調であることを反映している。



出典: 2026年8月8日時点のモーニングスターのデータに基づく、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の分析である。

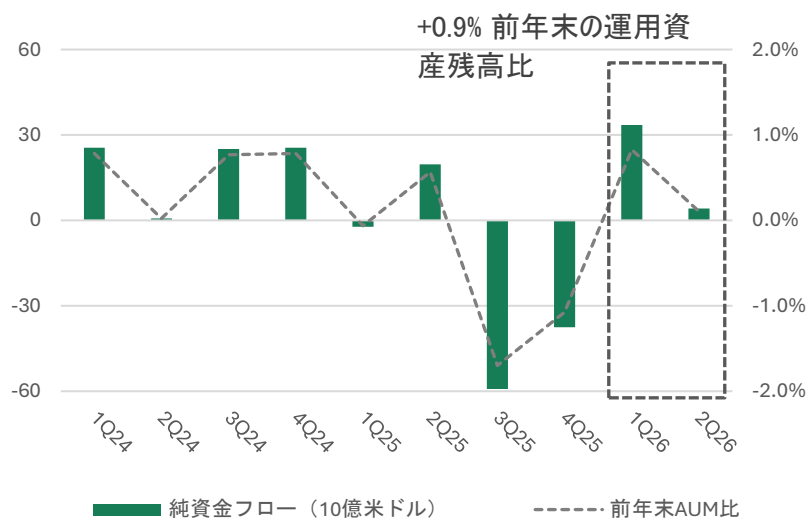
モルガン・スタンレーサステナブル投資研究所 | 2026 | サステナブル・リアリティ

2026年上半期、サステナブルファンドには資金流入が見られたが、第2四半期にはその勢いが鈍化した

サステナブルファンドは、2026年上半期に377億ドルの資金流入を記録し、これは前年末の運用資産残高(AUM)の0.9%増に相当する。第1四半期の資金流入額は335億ドルに回復し、2025年第4四半期の375億ドルの資金流出から大幅に回復した。しかし、2026年第2四半期にはこの勢いが鈍化し、資金流入額は42億ドルにとどまった。従来型ファンドへの資金流入は、サステナブルファンドへの資金流入を上回り続けており、2026年上半期の資金流入額は、前年末の運用資産残高(AUM)の2.5%増となった。

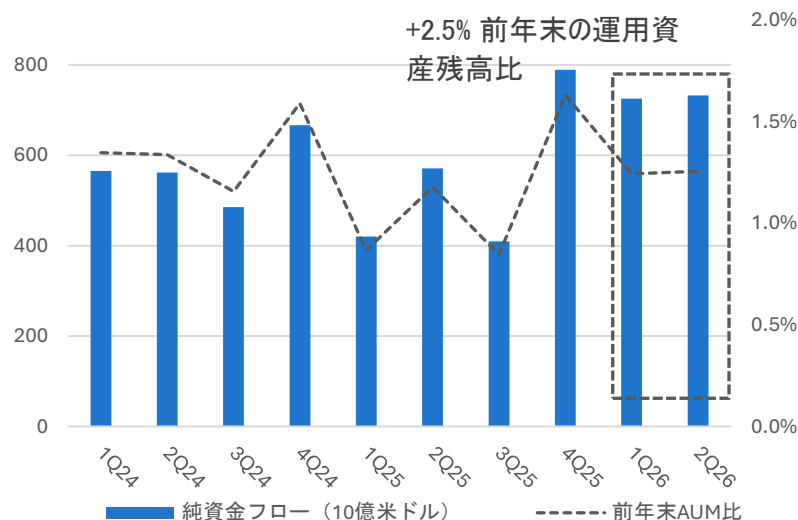
2026年上半期、サステナブルファンドへの資金流入は若干の回復を見せた

サステナブル四半期純資金フロー



従来型ファンドでは、着実な資金流入が見られた

従来型四半期純資金フロー



出典: 2026年8月8日時点のモーニングスターのデータに基づく、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の分析である。

モルガン・スタンレーサステナブル投資研究所 | 2026 | サステナブル・リアリティ

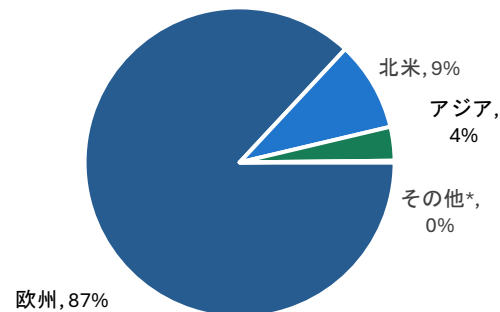
欧州ではサステナブルファンドへの資金流入が続き、北米は資金流出から流入に転じたが、各地域の従来型ファンドの流入率には及ばない状況

サステナブル資産運用残高の87%を占める欧州籍のサステナブルファンドは、2026年上半期に439億ドルの資金流入を記録した。これは前年末の運用資産残高(AUM)比で+1.2%増であり、資金流入のほぼすべてが2026年第1四半期に集中し、2026年第2四半期は伸びが鈍化した。

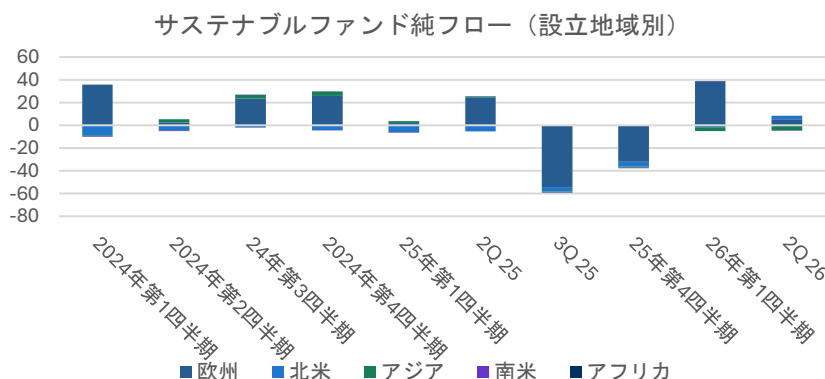
北米のサステナブルファンドは、2026年第2四半期に31億ドルの資金流入を記録し、3年以上にわたる資金流出に終止符を打った。上半期の純流入額は前年末の運用資産残高(AUM)比+0.4%(第1四半期はわずかにマイナス)となったが、従来型ファンドと比べると依然として低調であった。

2026年上半期、アジア籍のサステナブルファンドは他の地域に比べパフォーマンスが低迷し、75億ドルの資金流出を記録した。これは前年末の運用資産残高(AUM)の5.5%に相当する。

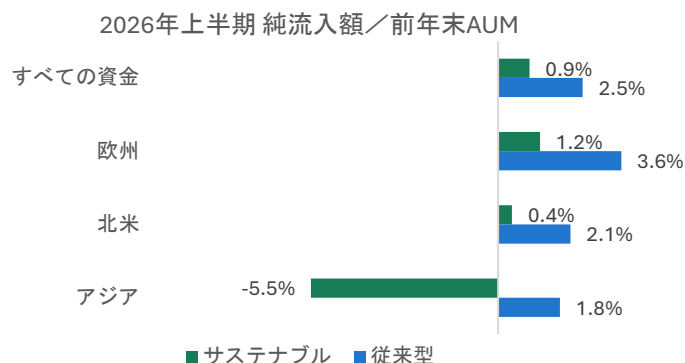
サステナブルAUMの地域構成



2026年上半期、欧州のファンドには資金が流入した



運用資産総額(AUM)に占める割合で見ると、アジアの資金フローが最も低調であった

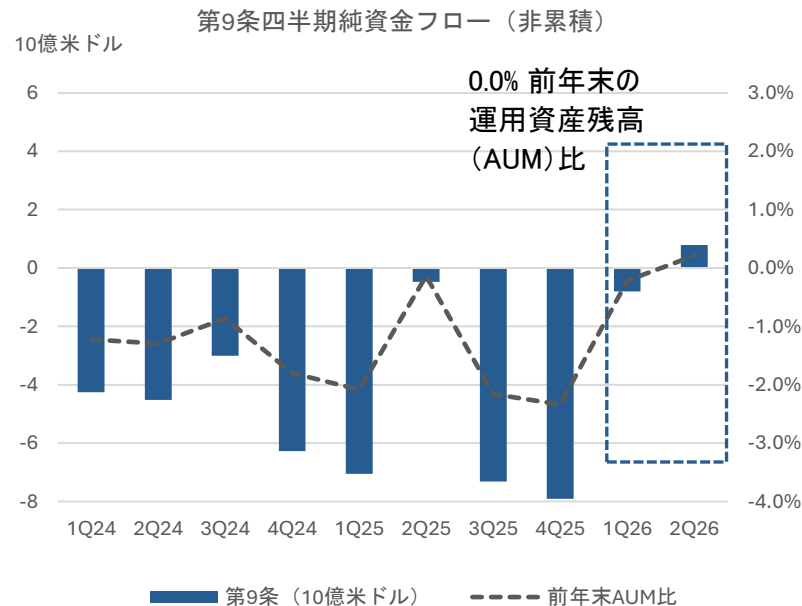
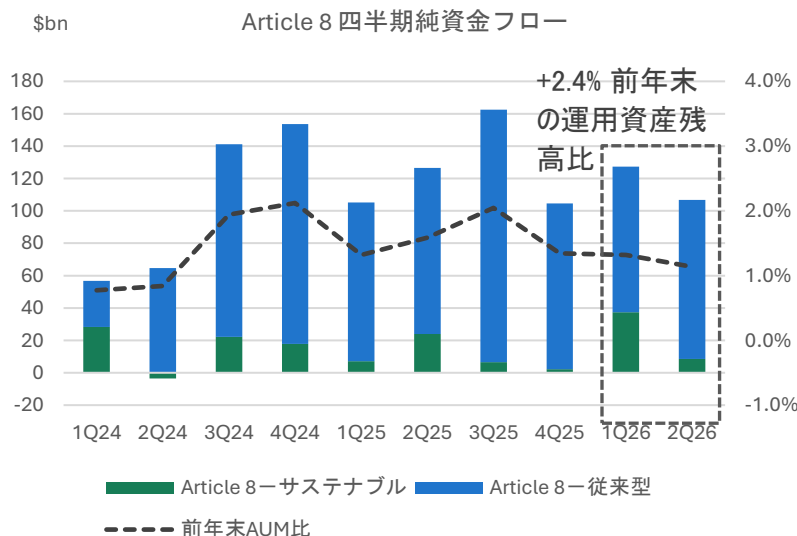


出典: 2026年8月8日時点のモーニングスターのデータに基づく、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の分析である。*「その他」には南米およびアフリカが含まれており、それぞれ運用資産総額(AUM)の0.09%および0.01%を占めている。なお、ファンドは特定の地域に籍を置く一方で、世界全体や他の地域に投資を行う場合もある。投資対象地域とは、後者を指す。

長期にわたる資金流出の後、2026年上半期の第9条ファンドは安定した状態を維持

2026年上半期、第8条に基づくファンドへの資金流入額は2,422億ドルとなった。これは前年末の運用資産残高(AUM)の2.4%増に相当する。これらの資金流入は、主にモーニングスターにより従来型に分類された第8条ファンドによるものであった。「サステナブル」に分類された第8条ファンドは、資金流入総額の458億ドル(19%)を占めている(前年末の運用資産残高比で1.8%増)。

2026年第2四半期、第9条ファンドには8億ドルのわずかな資金流入があった。これは、2023年第4四半期にさかのぼる10四半期連続の資金流出に続くものである。2026年第1四半期はわずかな資金流出にとどまったため、2026年上半期の資金動向はほぼゼロであった。

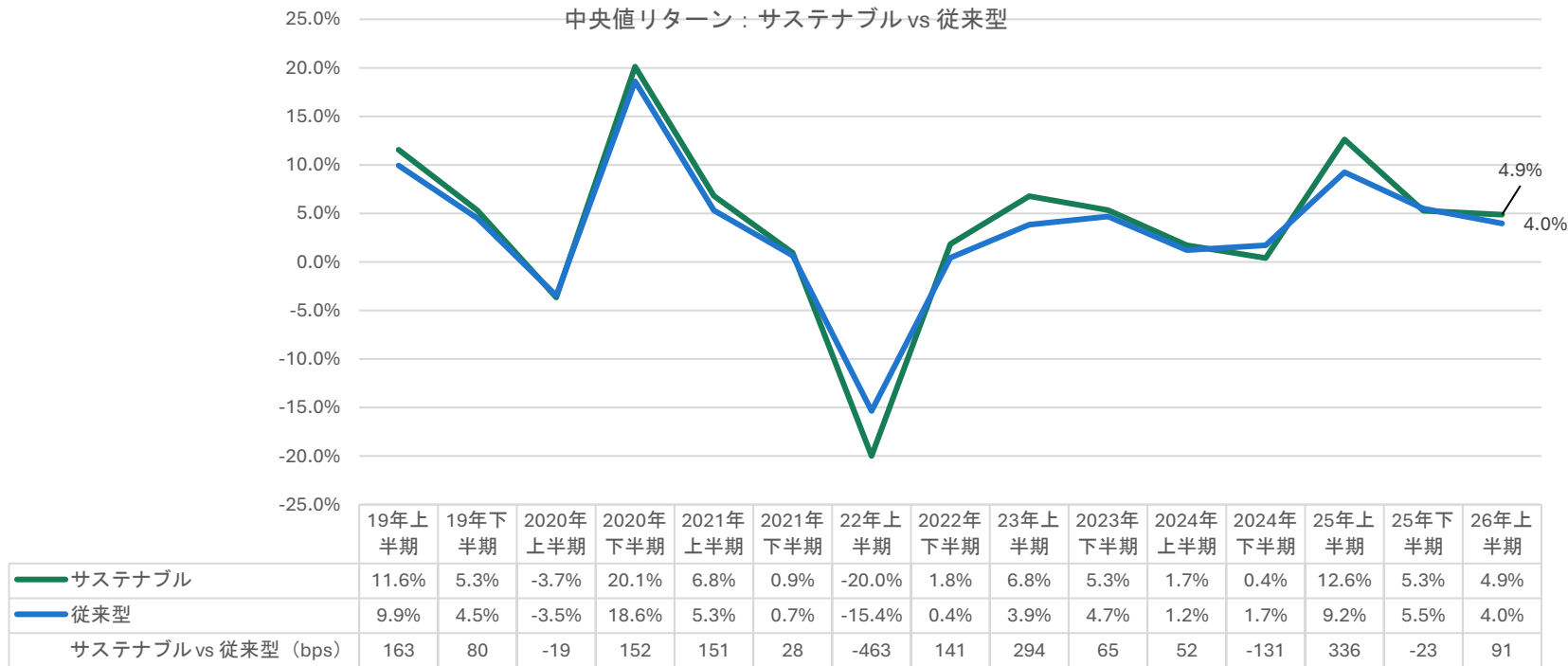


出典: 2026年8月8日時点のモーニングスターのデータに基づく、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の分析である。

サステナブル型ファンドは、従来型ファンドを上回るパフォーマンスを示し、中央値リターンは+4.9%であった

2026年上半期、サステナブル型ファンドの中央値リターンは+4.9%となり、+4.0%だった従来型ファンドの中央値リターンを1パーセントポイント近く上回った。これは、サステナブルファンドにおいて、従来型ファンドと比較して株式ファンドの構成比が高かったことが要因であり、いずれのファンド群においても、株式が最もパフォーマンスの良かった資産クラスとなった。サステナブルファンドは、4つの地域すべてで優れた運用成績を収めた。

2026年上半期、サステナブルファンドは従来型ファンドを上回るパフォーマンスを記録した



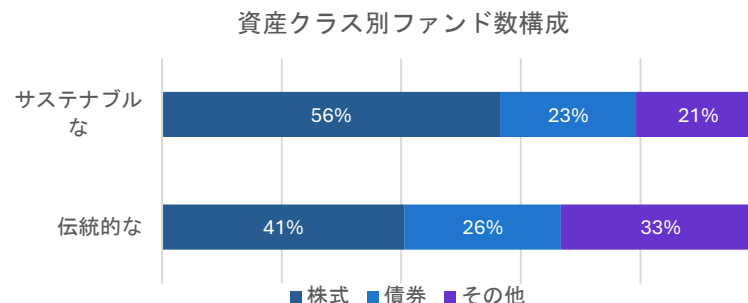
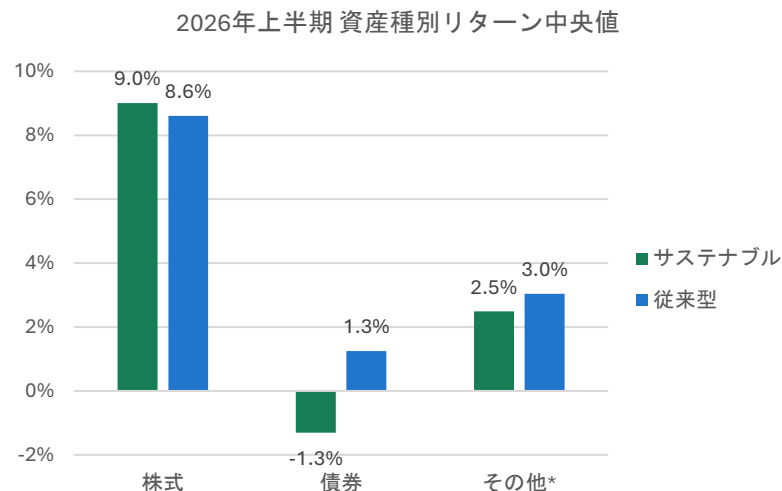
出典：2026年8月8日時点のモーニングスターのデータに基づく、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の分析である。注：bpsはベースポイントの略である。10bpsは0.1%に相当する。

株式ファンドの好調な運用実績が、サステナブル・ファンド全体のアウトパフォーマンスを牽引

2026年上半期において、サステナブルファンドの相対的なパフォーマンスには、資産配分が大きく寄与した。サステナブルファンドは株式への配分比率が高く(サステナブルファンドの株式比率が56%に対し、従来型ファンドは41%)、これが全資産クラスの中で最も高い中央値のリターンをもたらした。

- **株式**: サステナブルファンドの中央値リターンは+9.0%となり、+8.6%だった従来型の同種ファンドを40bps上回った。
- **債券**: サステナブルファンドの中央値リターンは-1.3%で、+1.3%を記録した従来型の債券ファンドを250bps以上下回った。ここでは地理的な要因が影響した。サステナブル・従来型のいずれの債券ファンドでも、グローバルおよび欧州の投資対象地域では中央値リターンがマイナスとなった。これらの地域は、サステナブル型債券ファンドの80%を占めているが、従来型ファンドではわずか39%に留まっている。
- **その他***: サステナブルファンドの中央値リターンは+2.5%となり、+3.0%を記録した従来型ファンドを下回った。

サステナブルファンドは株式で最も高いパフォーマンスを記録した



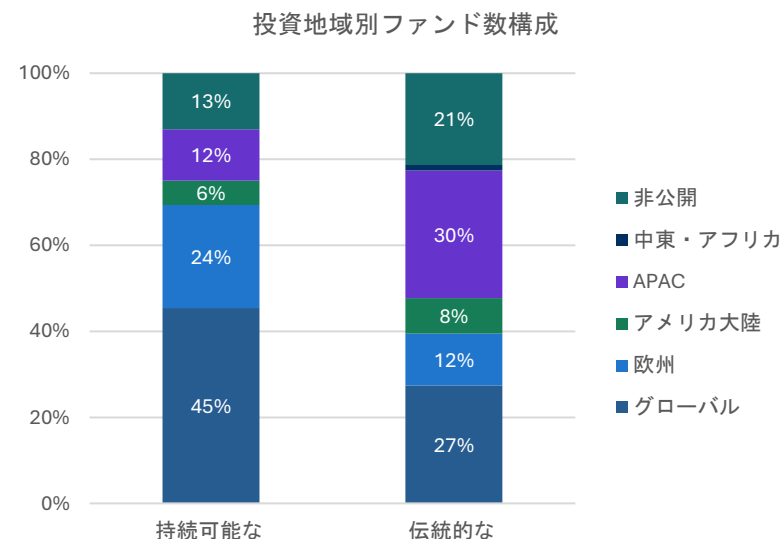
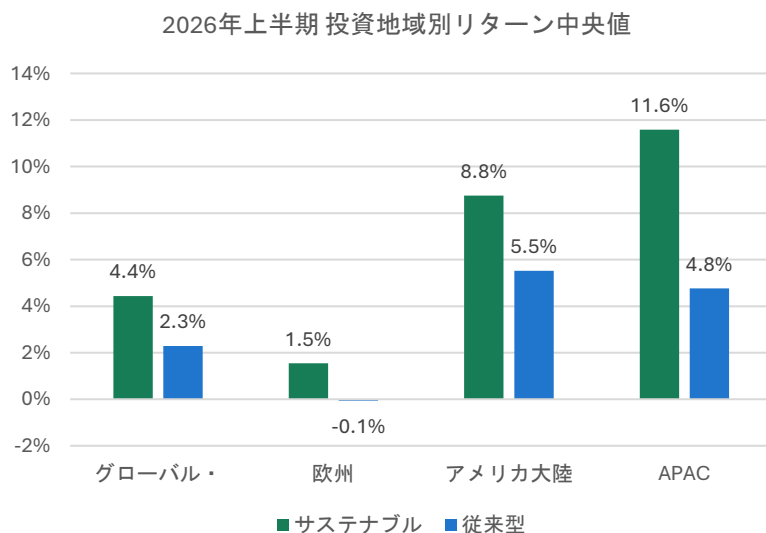
出典: 2026年8月8日時点のモーニングスターのデータに基づく、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の分析である。注: bpsはベースポイントの略である。10bpsは0.1%に相当する。*「その他」には、マルチアセット、不動産、コモディティ、およびオルタナティブ投資ファンドなどが含まれる。

2026年上半期、サステナブルファンドはすべての地域で優れたパフォーマンスを示し、特に米州およびアジア太平洋地域で好調

米州およびアジア太平洋地域における堅調な相対パフォーマンスが、サステナブル・ファンド全体のアウトパフォーマンスを牽引し、グローバルおよび欧州の投資地域への配分比率が高いことによる影響を上回った。グローバルおよび欧州ではリターン中央値が低かったものの、サステナブル・ファンドは両地域とも従来型ファンドを上回るパフォーマンスを示した。これは、サステナブル・ファンドのグローバルおよび欧州への投資比率が高かった時期（サステナブル・ファンド69%、従来型ファンド39%）とは対照的である。当時は、こうした地域配分の偏りが相対的なアンダーパフォーマンスの主な要因となっていた。

米州およびアジア太平洋地域では、最も高いリターン中央値を記録

サステナブルファンドの69%が、グローバルおよび欧州に投資



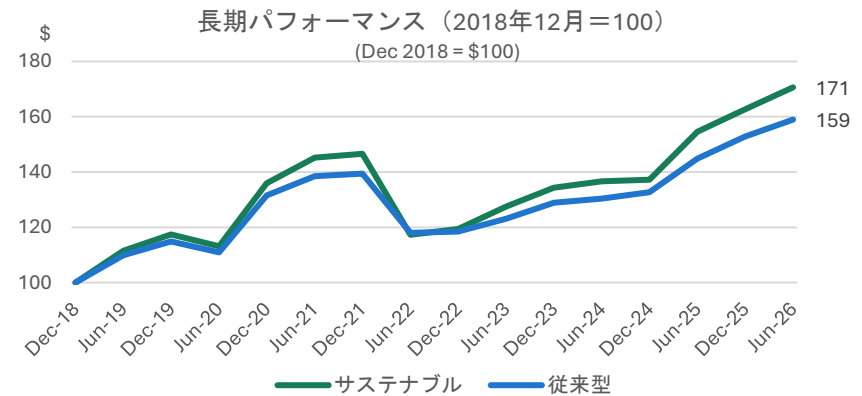
出典：2026年8月8日時点のモーニングスターのデータに基づく、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の分析である。サステナブル・リアリティシリーズでは、米ドル建てのリターンを示している。

長期リターンと下方偏差

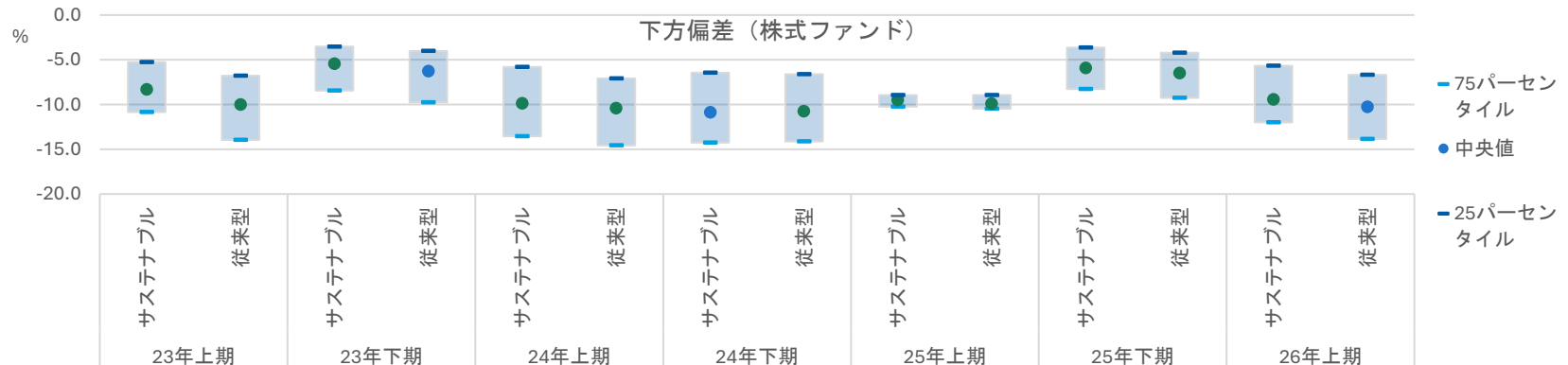
2018年12月にサステナブルファンドに100ドルを投資したと仮定した場合、各期間で中央値のリターンが得られたとすれば、2026年6月末までにその額は171ドルに増加していたことになる。一方、従来型ファンドの場合は159ドルであった。

2026年上半期において、サステナブル株式ファンドの下方偏差は-9.5%、従来型株式ファンドは-10.3%となり、これは従来型ファンドの方が相対的な損失を被る可能性が高かったことを意味する。下方偏差とは、特定のベンチマークに対して、一連のファンドがマイナスリターンを記録する可能性を測定する指標である。

2018年12月に100ドルを投資した場合、サステナブル・ファンドの収益率の中央値*に基づくと、現在は171ドル



下方偏差とは、選定されたベンチマーク(ここではS&P 500)に対してマイナスのリターンが生じる可能性を測る指標



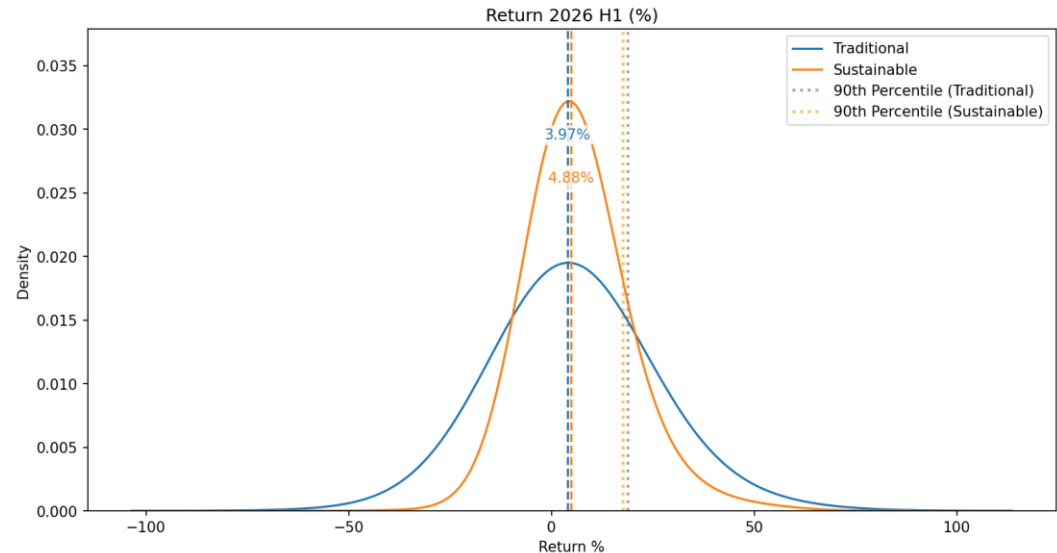
出典: 2026年8月8日時点のモーニングスターのデータを基に、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所が分析したものである。*過去の運用実績は、将来の結果を保証するものではない。モーニングスターのサステナブルファンド分類は2019年1月に開始されたため、2018年12月を起点としている。このグラフは、各半期におけるサステナブル型および従来型ファンドのユニバース全体(9ページに記載の通り)のファンドリターンの中央値を、2018年12月から開始した架空の100ドルの投資に適用したものである。

2026年上半期、サステナブルファンドの72%がプラスのリターンを記録

2026年上半期には、サステナブルファンドの72%がプラスのリターンを記録したのに対し、従来型ファンドでは67%であった。

どちらの曲線も尾部が長く伸びているため、ファンドの運用成績の分布範囲は非常に広がっている。平均リターン、すなわち単純平均を使用すると、こうした「ロングテール」の影響を過度に受けることになり、選定されたファンド群全体でそのリターンが達成される確率を適切に反映できなくなる。

サステナブル型ファンドと従来型ファンドのリターン分布の密度図



サステナブル・リアリティシリーズでは、ファンドの規模の違いを考慮した加重処理を行わず、ファンドのリターンの中央値を主要な指標として採用している。ファンドのリターン全体が正規分布に従っていないことを考慮すると、中央値の方がより適切なリターン指標となる。また、中央値は、投資家がファンドを選択し、その特定のリターン値を達成する可能性をより適切に表している。

出典：2026年8月8日時点のモーニングスターのデータに基づく、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の分析である。

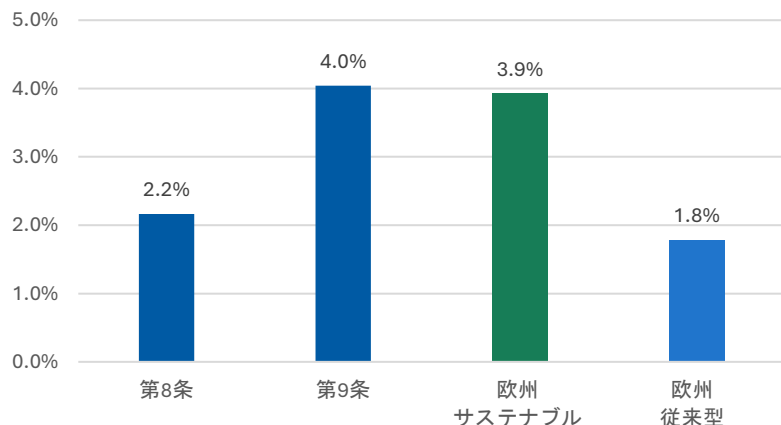
モルガン・スタンレーサステナブル投資研究所 | 2026 | サステナブル・リアリティ

欧州籍ファンドの運用実績の分析

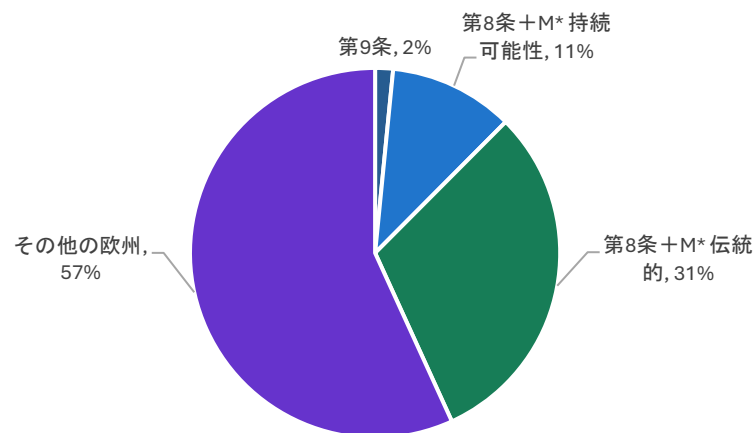
2026年上半期、欧州籍のサステナブルファンドは、従来型ファンドを上回るパフォーマンスを示し、中央値のリターンは+3.9%を記録したのに対し、従来型ファンドは+1.8%にとどまった。第8条に基づくファンド（一部の従来型ファンドを含む）の収益率の中央値は+2.2%であったのに対し、第9条に基づくファンドの収益率の中央値は+4.0%であった。

欧州籍の運用資産総額（AUM）のほぼ半数は、第8条（欧州全体のAUMの42%）または第9条（全体の2%）に分類され、残りは第6条に該当する。モーニングスターは、第9条に該当する運用資産のすべておよび第8条に該当する運用資産の11%を「サステナブル」に分類しており、これは欧州籍の運用資産全体の13%に相当する。

2026年上半期 SFDR分類別中央値リターン



欧州拠点AUMの構成（2026年6月）



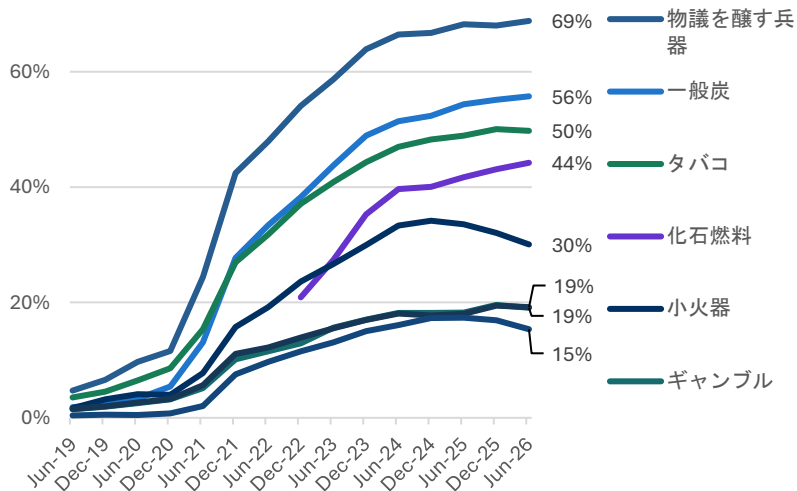
EUのサステナブルファイナンス開示規則（SFDR）は、持続可能な投資戦略に関する透明性を高めることを目的として、資産運用会社に対するESG開示の義務を定めている。2023年1月1日に全面施行されたSFDRの分類体系によれば、ファンドは「第6条」（サステナビリティの適用範囲を持たないファンド）、「第8条」（環境的または社会的特性を促進するファンド）、あるいは「第9条」（サステナブル投資を主たる目的とするファンド）のいずれかに分類される。

出典：2026年8月8日時点のモーニングスターのデータに基づく、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の分析である。

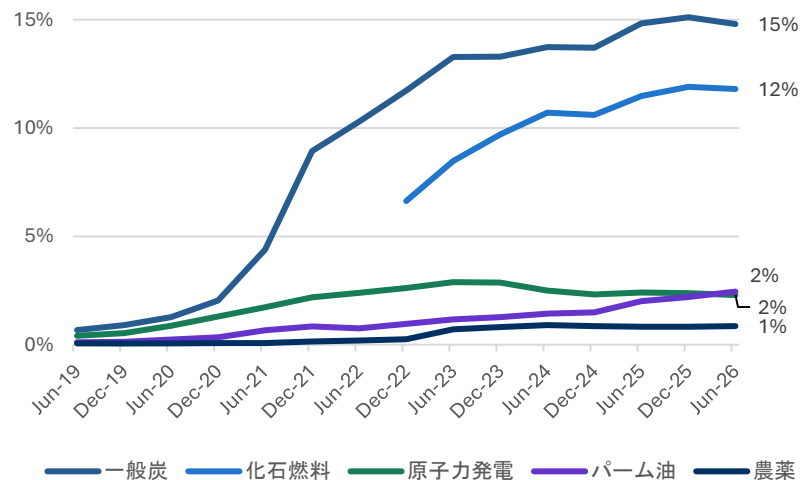
ネガティブスクリーニングの経年変化

2026年上半期には、防衛関連のネガティブスクリーニングが一部で小幅に減少した一方、環境関連のスクリーニングは緩やかに増加した。

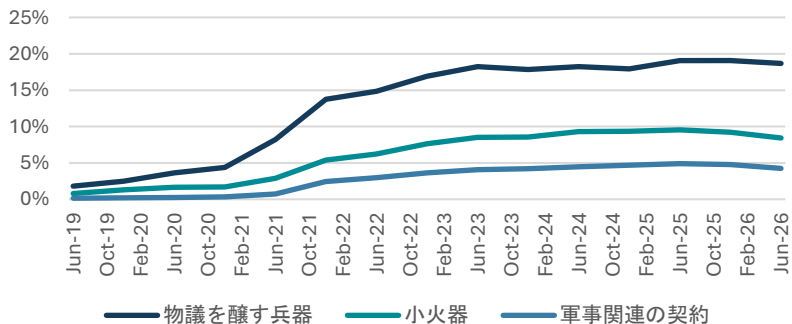
欧州の制限スクリーニング



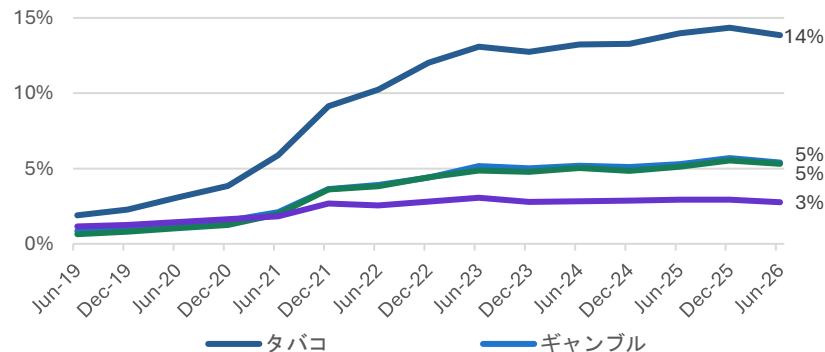
環境基準の制限スクリーニング（世界）



防衛関連の制限スクリーニング（世界）



価値観に基づく制限スクリーニング（世界）



出典：2026年8月8日時点のモーニングスターのデータに基づく、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の分析である。** 化石燃料は、2022年12月から独立したカテゴリーとして導入された。

ネガティブスクリーニング

欧州籍ファンドは、北米やアジアのファンドに比べ、制限が課される可能性はるかに高い。

ネガティブスクリーニング、2026年6月現在	グローバルAUM、10億ドル	グローバルAUMの割合	欧州籍AUM、10億ドル	欧州AUMの割合	北米籍AUM、10億ドル	北米AUMの割合	アジア籍AUM、10億ドル	アジアAUMの割合
武器	15,050	18.7%	14,262	68.8%	417	0.9%	368	3.5%
一般炭	11,919	14.8%	11,552	55.7%	249	0.5%	117	1.1%
たばこ	11,163	13.9%	10,308	49.7%	443	0.9%	408	3.9%
その他*	10,172	12.6%	9,582	46.2%	386	0.8%	200	1.9%
化石燃料**	9,511	11.8%	9,164	44.2%	260	0.6%	87	0.8%
小火器	6,783	8.4%	6,230	30.1%	354	0.8%	199	1.9%
ギャンブル	4,351	5.4%	3,952	19.1%	260	0.6%	136	1.3%
アダルトエンターテインメント	4,283	5.3%	3,975	19.2%	179	0.4%	128	1.2%
軍事請負	3,419	4.2%	3,182	15.4%	164	0.4%	74	0.7%
アルコール	2,234	2.8%	1,866	9.0%	254	0.5%	109	1.1%
原子力	1,851	2.3%	1,689	8.1%	122	0.3%	41	0.4%
パーム油	1,975	2.5%	1,924	9.3%	29	0.1%	22	0.2%
遺伝子組み換え生物	742	0.9%	721	3.5%	17	0.0%	4	0.0%
農業	688	0.9%	684	3.3%	4	0.0%	0	0.0%
動物実験	364	0.5%	304	1.5%	41	0.1%	18	0.2%
毛皮および特殊皮革	253	0.3%	246	1.2%	3	0.0%	3	0.0%
人工妊娠中絶	178	0.2%	99	0.5%	77	0.2%	2	0.0%

出典：2026年8月8日時点のモーニングスターのデータに基づく、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の分析である。「その他*」には、列挙された除外項目に含まれないあらゆる要因が含まれる。例えば、政府に人権上の懸念がある国で事業を展開している企業などが挙げられる。** 2022年12月より、化石燃料が独立したカテゴリーとして追加された。

方法論

本レポートは、モルガン・スタンレー・サステナブル投資研究所の「サステナブル・リアリティ」シリーズの一環であり、モーニングスターのデータを用いて、特定の期間におけるサステナブル・ファンドと従来型ファンドの過去のパフォーマンスを比較・評価したものである。本レポートでは、2026年1月1日から2026年6月30日までの実績を分析している。

本分析の対象となるファンドには、クローズドエンド型ファンド、上場投資信託(ETF)、およびオープンエンド型ファンドが含まれる(各ファンドについては、最も古いシェアクラスを採用している)。なお、フィーダーファンド、ファンド・オブ・ファンズ、およびマネーマーケットファンドは対象外となる。この分析では、世界中の約99,000本のファンドを対象とした。本分析では、各ファンドのサステナビリティ分類について、6月30日時点(上半期版の場合)または12月31日時点(通年版の場合)のものを採用している。ファンドの選定基準自体は変わらないが、直近の日付におけるファンドの分類を基準とするため、各号ごとに選定対象となるファンドの範囲が変わる可能性がある。すべての過去のデータは、当期の分類に基づいて組み替えられている。

モーニングスターは、ファンドについて、「…目論見書やその他の規制当局への提出書類に、サステナビリティ、インパクト投資、あるいは環境・社会・ガバナンス(ESG)要因に重点を置いていると記載されている場合」、そのファンドを「サステナブル」と分類する。ファンドは、サステナビリティ目標を掲げていること、および／または投資銘柄の選定において拘束力のあるESG基準を採用していることが求められる。「除外基準を限定的にしか適用していないファンドや、ESG要因を拘束力のない形でしか考慮していないファンドは、サステナブル投資商品とはみなされない。」

サステナブルファンドとは、モーニングスターによって「サステナブル」と分類されたファンドを指す。これは、比較的新しく、依然として広範な範囲をカバーする欧州のサステナブルファイナンス開示規則(SFDR)の第8条および第9条における定義とは異なる場合がある。第9条に該当するファンドの99%以上も、モーニングスターによって「サステナブル」に分類されているが、第8条に該当するファンドでは、その割合は約30%にとどまっている。従来型ファンドとは、モーニングスターによって「非サステナブル」と分類されたファンドである。

モーニングスターのトータルリターンは百分率で表され、月次の純資産価値の変動額を取り、その月中に分配されたすべての収益およびキャピタルゲインを再投資した上で、期首の純資産価値(NAV)で割ることにより、毎月算出される。すべてのリターン数値は、これまでのサステナブル・リアリティと同様に、リターンの中央値を示しており、米ドル建てで表示されている。

ファンドがモーニングスターにデータを報告する際には、数週間から数ヶ月のタイムラグが生じることがあり、特にアジア籍のファンドではその傾向が顕著である。過去の期間の数値の一部は、最新の開示内容を反映させるために修正されている。これが過去の分析に重要な影響を及ぼす場合は、その影響について本文中に記載している。また、過去の数値についても、将来的に若干の修正が行われる可能性がある。本レポートのデータは、2026年8月8日に収集されたものである。サステナブル・リアリティの過去の号では、ファンドの籍に基づいた地域別データを分析してきた。2024年2月号より、本シリーズではこの内訳を維持しつつ、ファンドの投資地域に基づくデータを別途追加することとなった。例えば、ファンドは欧州籍でありながらも、世界中の資産に投資することが可能である。

開示事項

本資料は2026年9月に公開されたものであり、あくまで情報提供のみを目的として作成されたもので、いかなる有価証券やその他の金融商品の売買、あるいはいかなる取引戦略への参加を勧誘するものではない。本資料は、モルガン・スタンレーのリサーチ部門によって作成されたものではなく、FINRAの規制で定義される「リサーチレポート」には該当しない。本資料は、個々の状況に合わせた投資アドバイスを提供するものではない。本資料は、これを受け取る方々の個々の財務状況や目標を考慮せずに作成されたものである。

SIPCの会員であるMorgan Stanley Smith Barney LLCおよびMorgan Stanley & Co. LLC（以下、総称して「モルガン・スタンレー」）は、本資料に記載されている取引または戦略に関する経済的なリスクとメリット、ならびに法的、税務、規制上および会計上の特性や結果について、受領者が自身の投資、法律、税務、規制および会計のアドバイザーと相談の上、自ら判断することを推奨する。特定の投資や戦略が適切かどうかは、投資家それぞれの状況や目的によって異なる。モルガン・スタンレー、その関連会社、従業員、およびモルガン・スタンレー・ファイナンシャル・アドバイザーは、税務、会計、または法律に関する助言は行っていない。税務や税務計画に関する事項については税務アドバイザーに、法律に関する事項については弁護士に相談することを推奨する。

過去の運用実績は、将来の運用実績を保証するものではなく、またその指標となるものでもない。記載されている過去のデータは、過去の運用実績を示すものであり、将来同様の成果が得られることを保証するものではない。本資料に含まれる一部の記述は、1995年民間証券訴訟改革法のセーフハーバー条項における「将来の見通しに関する記述」に該当する可能性がある。これらの記述は、過去の事実や現在の状況に関する記述ではなく、経営陣の現時点での予想に基づくものであり、不確実性や状況の変化の影響を受ける可能性がある。これらの記述は、将来の結果や事象を保証するものではなく、予測が困難であり、多くの場合当社の支配の及ばない、既知および未知のリスク、不確実性、および仮定を伴う。また、本報告書には、仮定のシナリオや前提に基づく記述が含まれており、これらは実際には発生しない場合や、実際の事象と大きく異なる場合がある。したがって、これらの記述は、必ずしも現在のリスクや実際のリスク、あるいは予想されるリスクの予測を反映しているとは見なすべきではない。実際の業績および財務状況は、さまざまな要因により、これらの記述に含まれる内容と著しく異なる可能性がある。モルガン・スタンレー、またはその代理人が行った将来に関する記述は、その記述が行われた時点でのみ有効であり、モルガン・スタンレーは、当該記述が行われた日以降に生じた状況や事象の影響を反映させるために、将来に関する記述を更新する義務を負わない。セクター投資は投資対象が限定されているため、多くのセクターや企業に分散して投資する場合に比べて、価格変動が激しくなる傾向がある。

一部のポートフォリオには、1つ以上のサステナビリティ要因を組み込んだ投資対象（以下「サステナブル投資」という）が含まれる場合がある。「サステナビリティ」とは、経済的、戦略的、および経営上の意思決定に、特定の環境的および／または社会的配慮を取り入れることを指す。個々の活動については、ケースバイケースで適切に評価されるが、モルガン・スタンレーのサステナビリティへの取り組みには、一般的に以下の要素が組み込まれている：気候変動／炭素排出、倫理および企業行動、サプライチェーン、気候・環境・社会リスク管理、金融・経済的包摂、従業員（ウェルネスおよびインクルージョンに関する取り組みを含む）、地域社会との関わり、人権、株主との対話、汚職・贈収賄、自然および生物多様性、ならびに廃棄物。

投資商品の目論見書やその他の募集書類、開示資料、および／または販売資料を慎重に確認し、その投資戦略にサステナビリティ要因がどのように組み込まれているかについて、詳しく確認する必要がある。

開示事項

サステナビリティに関する考慮事項には、環境的要因(例:気候変動、生物多様性)、社会的要因(例:人的資本、データプライバシー、ダイバーシティ&インクルージョン)、ガバナンス的要因(例:取締役会の監督、企業倫理、リスク管理)などが含まれるが、これらに限定されるものではない。投資商品の目論見書やその他の募集書類、開示資料、および／または販売資料を注意深く確認し、その投資戦略にサステナビリティ要因がどのように組み込まれているかについて、詳しく理解することを推奨する。

サステナブル投資は、インパクト投資、社会的責任投資、環境・社会・ガバナンス(ESG)投資、あるいはダイバーシティ・アンド・インクルージョン(D&I)投資とも呼ばれることがある。業界内で用いられるサステナビリティの定義や基準は様々であるという点、また、同一の対象企業や有価証券に対するESG格付けが、ESG格付け提供者によって異なる場合があることを理解することが重要である。その理由としては、定義、方法論、プロセス、データソースの違いに加え、格付けを決定する際のESG格付け提供者間の主観的な判断の違いなどが挙げられる。個別運用口座(「SMA」)、投資信託、上場投資信託(「ETF」)などを含む(ただしこれらに限定されない)一部の発行体においては、サステナビリティ基準に関する見解が異なり、一貫性を欠く場合がある。また、募集目論見書やその他の資料に記載されているサステナビリティに関する主張は、サステナビリティへの影響を過大評価している可能性がある。その結果、サステナブル投資商品を比較することは困難である。さらに、社会的責任に関する規範は地域によって異なり、発行体のサステナビリティへの取り組みや、モルガン・スタンレーによる発行体のサステナビリティへの取り組みに対する評価は、時間の経過とともに変化する可能性がある。

サステナブル投資とみなされる投資対象を含んでいるポートフォリオ、あるいは全体的な戦略の一環としてサステナビリティ・スクリーニング基準を採用しているポートフォリオは、そうした手法を採用していないポートフォリオに比べて、パフォーマンスが低くなる場合もあれば、高くなる場合もある。サステナビリティに関する制限や戦略が盛り込まれたポートフォリオや、サステナブル投資は、サステナビリティ基準を適用していないポートフォリオと同様の機会や市場動向を活用できない可能性がある。採用されたサステナブル投資戦略や手法が成功する保証はない。過去の運用実績は、将来の結果を保証するものではなく、また将来の結果を予測する確かな指標でもない。特定のファンドに関連するリスクについては、当該ファンドの目論見書または要約目論見書を参照されたい。

投資運用会社は、サステナビリティに対してそれぞれ異なるアプローチをとることがあり、同じテーマやトピックに関して、他の投資運用会社が提供する戦略とは異なる戦略を提案する場合がある。さらに、投資を評価する際、投資運用会社は、不完全、不正確、あるいは入手できない情報やデータに依存せざるを得ない場合があり、その結果、運用会社が投資のサステナビリティ特性やパフォーマンスを誤って評価してしまう可能性がある。こうしたデータや情報は、自発的な報告や第三者による報告を通じて入手される場合がある。モルガン・スタンレーは、当該情報およびデータの正確性を検証しておらず、発行体を評価するにあたり、その正確性、適時性、または完全性について、いかなる表明または保証も行わない。

モルガン・スタンレーによる発行体のサステナビリティへの取り組みやサステナビリティ・ポートフォリオの評価は、本資料の日付時点でのものである。原資産が、適用されるサステナビリティに関する認定や明示されたサステナビリティ基準への準拠を維持していること、または今後も維持し続けること、あるいは原資産がサステナビリティ基準に準拠した方法で運営されてきたこと、または今後も運営されることについては、いかなる保証もしない。有価証券およびその原資産のサステナビリティへの影響は、時間の経過とともに変化する可能性がある。

開示事項

これにより、モルガン・スタンレーが、発行体のサステナビリティに関する取り組みについて、その事業慣行を誤って評価してしまう可能性がある。その結果、サステナブル投資商品を比較することは困難である。

モルガン・スタンレーは、いかなるファンドまたはポートフォリオについても、サステナビリティに関連する法令、規制上のガイドライン、推奨事項、要件、または類似の基準への準拠について、また、顧客の投資におけるサステナビリティに関する目的、指標、基準との関連性またはそれらを満たすことについて、あるいはその他の点について、いかなる表明も行わない。

特定のサステナブル投資や戦略が適切かどうかは、投資家それぞれの状況や目的によって異なる。投資の元本および収益は、市場の状況の変化に伴い変動する。

本資料には、ウェブサイトのアドレスが記載されている場合や、ウェブサイトへのハイパーリンクが含まれている場合がある。本資料がモルガン・スタンレー・ウェルス・マネジメントのウェブサイト上の資料に言及している場合を除き、当社はリンク先のサイトについて確認を行っていない。同様に、本資料がモルガン・スタンレー・ウェルス・マネジメントのウェブサイト上の資料に言及している場合を除き、当社は、本資料に含まれるデータおよび情報について、一切の責任を負わず、また、これらに関していかなる表明または保証も行わない。かかるアドレスまたはハイパーリンク(モルガン・スタンレー・ウェルス・マネジメントのウェブサイト上の資料へのアドレスまたはハイパーリンクを含む)は、あくまで顧客の便宜および情報提供のみを目的として提供されるものであり、リンク先のサイトの内容は、いかなる意味においても本資料の一部を構成するものではない。当社の資料またはウェブサイトを通じて、そのようなウェブサイトにアクセスし、またはそのようなリンクをたどる場合は、顧客自身の責任において行うものとし、当社は、そのような参照先ウェブサイトから生じる、またはそれに関連するいかなる責任も負わない。モルガン・スタンレー・ウェルス・マネジメントは、モルガン・スタンレー・スミス・バーニーLLCの事業部門である。

信用品質とは、債券発行体の信用力、すなわち債券保有者に対して利息や元本を期日通りに返済する能力を示す指標である。表示されている信用格付けは、各ファンドの証券格付けに基づき、スタンダード・amp・プアーズ、ムーディーズ、および／またはフィッチ(該当する場合)によって提供されたものである。信用格付けは、格付け機関によってファンドそのものではなく、ファンドに組み入れられている証券に対して付与されるものであり、ファンドに組み入れられている証券の信用力は、ファンドの安定性や安全性を示すものではない。表示されている信用格付けは、S&Pおよびフィッチの分類に基づき、最高位のAAAから最低位のDまでの範囲となっている(ムーディーズの格付けでは、それぞれAaaおよびCに相当する)。S&PおよびフィッチによるBBB以上の格付け(ムーディーズではBaa以上)は、投資適格級の証券とみなされる。2つ以上の格付け機関が同一の証券に対して異なる格付けを付与している場合、最も高い格付けが適用される。3つの格付け機関すべてから格付けを受けていない有価証券は、「NR」と表示される。信用格付けは変更される場合がある。

指数は運用対象ではなく、指数そのものへの直接投資はできない。

© 2026 Morgan Stanley & Co. LLC および Morgan Stanley Smith Barney LLC。SIPCの会員である。無断転載・複製を禁じる。

CRC 5840341 2026年9月